

## 都市生活者からみた十津川村

小松原 尚

1. はじめに—都市生活者の視角—
2. アンケート回答者の構成—若年層を中心に—
3. 十津川村の認知度—名前と位置—
4. 十津川村に対するイメージ—快適、知名、敬遠—
5. まとめ—交流拡大への展望—

### 1. はじめに—都市生活者の視角—

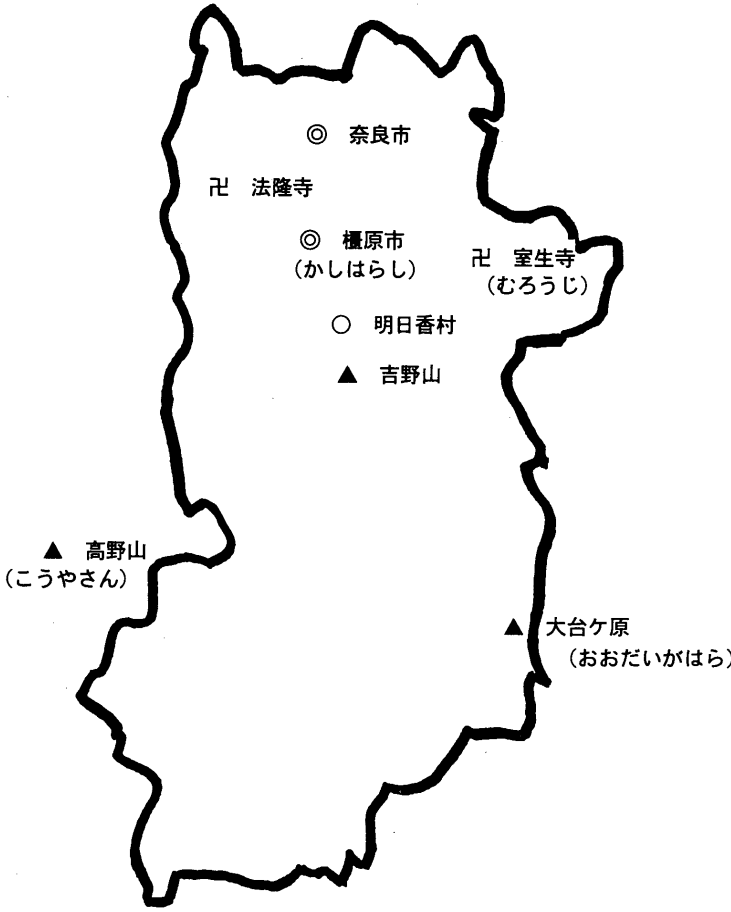
自家用車利用の拡大や道路など交通インフラの整備にともない都市住民の生活圏は拡大している。そして、国民の7割以上は都市で生活している。このような都市生活者の山間地域への関心は、圏域、性別、年齢、職業を超えて、高い。さらに、そうした人々は山間地域に対して、自らの日常生活とは異なった豊かな自然環境のなかで休息や様々な体験活動への期待が大きいと考えられる。さらに、手付かずの自然への期待、そして山間地域に対する関心の希薄な人々にとっても温泉などでの心身のリフレッシュは大きな魅力となっている。

こうした段階にあって、需要の取込みのためには個別地域の対応だけでなく、隣接地域との連繋が不可欠である。広域的な連携による観光・レクリエーション機能の整備を考える上では、サービス集積を念頭に置いた戦略的な観光ルートを提示する必要がある。そのためには、都市圏における機能地域の中に山間地域を位置づけ、人の流れと意識の動きを構造的に解明することが必要になる。しかもこのことは、都市生活者に対して、観光・レクリエーション機能を提供する山間地域の人々の視角だけでなく、都市生活者が山間地域をどのようにとらえているかという点にも関心をはらう必要があると考えられる。

これまでの都市研究は、都市圏研究が日常生活圏を中心に進展をみた。さらに山間地域の自立に関する実践的な事例研究も数多く発表されているし、山間地域における観光振興の研究業績も多い。しかし、都市圏の機能地域の一部として山間地域を位置づけ、観光・レクリエーション機能の側面からアプローチした成果は乏しい。

そこで、こうした課題に接近するために、都市住民アンケート調査を実施した。アンケートの質問内容は第1表に示した通りである。アンケートの内容は第1表に示した通りである。質問1は、十津川村に対する知名度、質問2は十津川村の位置に関する理解度、そして、質問3は村に対するイメージを問うたものである。

第1表 アンケートの構成

質問番号	質問事項
1	奈良県吉野郡十津川村をご存知ですか。
2	<p>十津川村はどこにありますか。 奈良県地図から範囲を大体で構いませんので囲んで下さい。</p> <p style="text-align: center;">【 奈良 県 地 図 】</p> 
3	十津川村はどのような村だと思いますか。

調査の方法は、アンケートに回答可能な男女に用紙を渡し、その後記入済の用紙を回収する標本収集法を採用した。アンケート原案は当時、小松原が指導にあたったゼミナールに所属する学生であった森田裕一（その後、埼玉大学教養学部へ編入学）が作成し、小松原が加筆・補正を行った。調査地域は関東地方、関西地方および、島根県松江市である。質問用紙の配布と回収は関東、関西は森田が、島根は小松原がそれぞれ担当した。調査期間は2002年7月15日から8月15日までであり、回収サンプル数は110件であった。

十津川村に関連した質問を設定したのは、この村が今後市町村合併をしないで村の経済的自活の方策を模索していること、そのための重要な手段の一つとして観光を考えていること、そして村の歴史や面積など全国的な関心も比較的あると考えたからである。

## 2. アンケート回答者の構成－若年層を中心に－

第2表を参照されたい。まず、アンケート回答者を年齢層ごとにみても、「30歳未満」が72人、「30歳以上50歳未満」が26人、「50歳以上」が12人となっており、「30歳未満」が全体の65.5%を占めている。「30歳未満」については後段で詳述するとして、これ以外のものについてとりあえずみておく。まず、「30歳以上50歳未満」は26人で、男女比では男性12人（46.2%）に対して女性14人（53.8%）になっている。その中で有職者が21人（80.8%）を占めている。「50歳以上」は12人で、男女比は男性4人に対して、女性が8人である。その中で有職者が10人を占めている。

第2表 アンケート回答者の構成

		男				女				合計
		東日本	西日本	中国	小計	東日本	西日本	中国	小計	
30歳未満	学生・生徒	13	11	16	40	3	4	23	30	70
	有職者	0	1	0	1	0	0	0	0	1
	無職・その他	0	1	0	1	0	0	0	0	1
	小計	13	13	16	42	3	4	23	30	72
30歳以上 50歳未満	学生・生徒	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	有職者	7	1	3	11	9	1	0	10	21
	無職・その他	1	0	0	1	3	0	0	3	4
	小計	8	1	3	12	12	2	0	14	26
50歳以上	学生・生徒	0	1	0	1	1	1	0	2	3
	有職者	2	0	1	3	4	0	0	4	7
	無職・その他	0	0	0	0	2	0	0	2	2
	小計	2	1	1	4	7	1	0	8	12
	合計	23	15	20	58	22	7	23	52	110

「東日本」は関東地方および長野、北海道を含む、「西日本」は近畿地方および愛知県を含む範囲である。

次に、性別でみると、男性58人に対して、女性52人であり、ほぼ均等になっている。最後に地域別にみると「東日本」が45人、「中国」が43人とほぼ並んで、「西日本」は22人である。

さらに、「東日本」では男性が23人に対して、女性は22人である。一方、「中国」は男性が20人に対して、女性は23人である。「西日本」は男性が15人に対して、女性は7人であり、男性の半分以下である。

これらの内訳をみると、「東日本」の男性では、「30歳未満」の「学生・生徒」が13人、「30歳以上50歳未満」の「有職者」が7人である。また、「東日本」の女性では、「30歳以上50歳未満」の「有職者」が9人である。「中国」の男性では「学生・生徒」が16人である。「中国」の女性では、23人全員が「学生・生徒」である。「西日本」の男性では、「30歳未満」の「学生・生徒」が16人で、最も多い。女性でも、「学生・生徒」が相対的に多い。

さて、以上のようにアンケート回答者の中では「30歳未満」の「学生・生徒」が70人で、そのアンケート回答者全体に占める割合でも63.6%である。地域別では、「中国」が39人（54.2%）、「西日本」が17人（23.6%）、「東日本」が16人（22.2%）である。

そこで、この範疇について検討を続けてみる。性別では男性が40人で「学生・生徒」の57.1%を占め、女性は30人で、同様に42.9%である。さらに、地域別に検討を進めると、男性は、「中国」で16人と最も多く、男性の「学生・生徒」の4割を占めている。次いで「東日本」が13人（32.5%）、「西日本」が11人で27.5%である。女性では30人中、「中国」が23と最も多く、女性全体の76.7%を占めている。「西日本」と「東日本」はそれぞれ4人と3人である。

### 3. 十津川村の認知度－名前と位置－

#### 1) 名称への認識

十津川村がアンケート回答者の中でどの程度知られているのだろうか。その点を次に検討してみよう(第3表)。全回答者110人の中で十津川村を「知っている」と答えたのは36人である。これに対して「知らない」との答えは74人であり、2倍以上になっている。「知っている」は「東日本」「西日本」「中国」それぞれ12人ずつになっている。一方「知らない」は「東日本」が33人、「中国」が31人、「西日本」が10人である。したがって、「東日本」と「中国」は「知っている」は「知らない」の半分以下であるが、「西日本」は「知っている」の方が多くなっている。

第3表 十津川村の知名度

		知っている								知らない								計		合計
		東日本		西日本		中国		小計		東日本		西日本		中国		小計		男	女	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
30歳未満	学生・生徒	3	0	5	2	6	3	14	5	10	3	7	2	10	20	27	25	41	30	71
	有職者	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	無職・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	3	0	6	2	6	3	15	5	10	3	7	2	10	20	27	25	42	30	72
30歳以上50歳未満	学生・生徒	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	有職者	4	1	0	1	2	0	6	2	3	8	1	0	1	0	5	8	11	10	21
	無職・その他	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	1	2	1	3	4
	小計	4	2	0	3	2	0	6	5	4	10	1	0	1	0	6	10	12	15	27
50歳以上	学生・生徒	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	有職者	2	0	0	0	1	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	4	3	4	7
	無職・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	2
	小計	2	1	1	0	1	0	4	1	0	6	0	0	0	0	0	6	4	7	11
計		9	3	7	5	9	3	25	11	14	19	8	2	11	20	33	41	58	52	110
合計		12		12		12		36		33		10		31		74		110		

「東日本」は関東地方および長野、北海道を含む、「西日本」は近畿地方および愛知県を含む範囲である。

次に年齢層別にみると、「30歳未満」は「知っている」が20人に対して「知らない」は52人であり、「知っている」は「知らない」の半分以下である。「30歳以上50歳未満」では「知っている」が11人に対して「知らない」は16人である。「50歳以上」では、「知っている」は5人、「知らない」は6人で、それほど大きな差はない。

「知っている」の男女比をみると、男性25人に対して女性は11人であり、男性の方が女性に比べて2倍以上になっている。男女比を地域別にみると「東日本」「中国」では男性9人に対して女性3人である。「西日本」では男性7人に対して女性5人であり、「西日本」の方が他の2地域に比べて相対的に女性の割合が大きくなっている。年齢層別に男女比をみると、「30歳未満」は20人中、男性は15人、女性は5人である。「30歳以上50歳未満」では11人中男性は6人、女性は5人、「50歳以上」では5人中男性は4人、女性は1人である。このように「知っている」は「30歳以上50歳未満」を除けば、年齢の違いよりも男女によって人数の差が大きいことがわかる。

一方「知らない」は、男女比をみると、男性33人に対して女性は41人であり、女性の方が男性に比べて多くなっている。男女比を地域別にみると「東日本」では男性14人に対して女性19人、「中国」でも男性11人に対して女性20人と女性の方が多くなっている。ただし「西日本」だけは男性8人に対して女性2人と男性の方が多くなっている。年齢層別に男女比をみると、「30歳未満」は52人中、男性は27人、女性は2

5人である。「30歳以上50歳未満」では16人中男性は6人、女性は10人、「50歳以上」は6人すべて女性である。このように「知らない」は「30歳未満」で若干男性が多い外は、女性の方が多く、この傾向は「東日本」と「中国」で顕著なことがわかる。

2) 位地への認識

十津川村の位地に関する認識を確かめるために第1表の設問2を設定した。回答者の示した十津川村の範囲は点的なものから広範な面的なものまで多様な内容であった。この結果を分析するために以下のような作業を行った。奈良県内を通る北緯34°線と東経136°線をそれぞれ東西と南北の基線として、10km四方のメッシュを設定した。東から西へ同経度帯をA～Fで、北から南へ同緯度帯をIからXまで区分した。これをもとにして、アンケートの回答1件ごとについて回答者がどの範囲を示しているのかを座標上に特定した。範囲の広狭にかかわらずメッシュにそれぞれの位置が示されていればそこを1ポイントとして計数した。示めされた範囲が広ければ1件でも多くの地点でポイントが記されることになる。次に緯度帯と経度帯に分けてそれぞれの区間ごとのポイントの合計値を算出してみた。その結果を以下に示す。

a) 経度帯

第4表によれば、経度帯ごとのポイントの合計は209ポイントである。全体の傾向としては、D帯で最も多くなっており、次いでC、そしてEの順番になっている。この3つの経度帯のポイントの合計は8割近くを占めている。特にD帯は十津川村内の観光地だけでなく、奈良県の主な観光地も含まれており、いわば「奈良観光軸」の線上に十津川の観光地も認識されていると考えられる。

第4表 十津川村の位置（東西方向）

方 角		東《=====》西						合 計
同経度帯		A	B	C	D	E	F	
知 っ て い る	東日本	0	0	6	10	8	2	26
	西日本	0	3	5	10	9	6	33
	中 国	0	1	7	11	8	6	33
	小 計	0	4	18	31	25	14	92
知 ら な い	東日本	0	8	12	13	11	5	49
	西日本	0	3	5	6	5	2	21
	中 国	0	8	17	15	4	3	47
	小 計	0	19	34	34	20	10	117
合 計		0	23	52	65	45	24	209
十津川村内 の 観 光 地					湯泉地温泉 十津川温泉 谷瀬吊り橋 野 猿 十 二 滝			
		十 津 川 村 域						
主 な 観 光 地		曾爾高原	室生寺 大台ヶ原	大宇陀温泉	東大寺 檀原神宮 明日香 洞川温泉 吉野山	法隆寺	高野山	

「東日本」は関東地方および長野、北海道を含む、「西日本」は近畿地方および愛知県を含む範囲である。

「知っている」と「知らない」を比べながら検討してみよう。「知っている」のポイントの合計は92ポイントである。一方、「知らない」のポイントの合計は117ポイントである。次に、A～Fの同経度帯ごと

にポイントの広がりをもてみる。「知っている」「知らない」とも、D帯でポイントが最も多くなっている。それぞれのポイント合計に占める割合もいずれも30%台である。

この経度帯には十津川村内の観光地だけでなく、奈良県内の主な観光地も含まれている。「知っている」ではD帯の次にはE帯が多く、この両者でポイント合計の6割に達している。一方、「知らない」の方はD帯の次にはC帯、E帯の順になっており、いずれも合計の2割以上を占めている。

「知っている」では「東日本」「西日本」「中国」のすべての地域で、D帯のポイントが最も多くなっている。次いで、E帯の順になっており、「知っている」全体の傾向と合致している。一方「知らない」は、最もポイントが多いのはどの地域もD帯になっている。しかし、2位以下は若干変化がある。まず「東日本」では、1ポイントの差ではあるが、C、E帯の順になっている。

次に「西日本」ではC、E帯が同数になっている。この2者ではC、D、E帯がほぼ一体的に把握されていると考えられる。「中国」ではC帯が最も多くなっており、次いでD帯となり、さらにポイント数は半分以下になるが、B帯が続いている。「東日本」「西日本」に比べて、E、F帯のウェイトが小さくなっている。

### b) 経度帯

第5表によれば、回答者全体の合計は191ポイントである。その分布をみると、VI帯とVIII帯が最も多くなっている。30ポイント台はこの他にV帯である。20ポイント台はVII帯とIX帯である。これらの他に、10ポイント台がIV帯とX帯である。したがって、VI帯とVIII帯を頂点になだらかな2つの山が台地状にIV帯からX帯まで広がっている。

第5表 十津川村の位置（南北方向）

方 角	北《=====》南										合 計	
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X		
知 っ て い る	東日本	0	0	0	0	2	2	4	6	5	3	22
	西日本	0	0	0	0	2	3	7	10	8	5	35
	中 国	0	0	0	0	1	4	6	7	5	5	28
	小 計	0	0	0	0	5	9	17	23	18	13	85
知 ら な い	東日本	1	0	1	7	12	10	6	6	1	0	44
	西日本	0	1	0	1	4	5	3	2	1	2	19
	中 国	0	1	1	2	13	12	3	5	5	1	43
	小 計	1	2	2	10	29	27	12	13	7	3	106
合 計	1	2	2	10	34	36	29	36	25	16	191	
十津川村内の観光地								谷瀬吊り橋	湯泉地温泉 十津川温泉 野 猿	十二滝		
								十 津 川 村 域				
主 観 光 地		東大寺	法隆寺 檀原神宮 室生寺	明日香 大宇陀温泉	吉野山	洞川温泉	高野山	大台ヶ原				

「東日本」は関東地方および長野、北海道を含む、「西日本」は近畿地方および愛知県を含む範囲である。

次に、「知っている」と「知らない」に分けて緯度帯の認識について検討してみよう。「知っている」は85ポイント、「知らない」は106ポイントになっている。「知っている」は23ポイントのIX帯を頂点に10ポイント台はVII帯、IX帯、X帯となっている。ほぼ南北方向の十津川村域と合致している。地域別にみても「東日本」「西日本」「中国」とも合計値と同じ傾向を示している。

これに対して「知らない」では、V帯、VI帯に20ポイント台後半の数字が並んでいる。この2つの帯域に「知らない」の50%以上が集中している。

地域別にみても、「東日本」「西日本」「中国」ともほぼ同様の傾向になっている。したがって、「知らない」は実際の村域よりも30km程度北と認識していることがわかる。

#### 4. 十津川村に対するイメージ—快適、知名、敬遠—

第1表の質問番号3では十津川村に対するイメージを自由に記してもらった。その内容（付表を参照）から第6表に示したようなキーワードを抽出し、それらを「快適」「知名」「敬遠」の3カテゴリーに分類した。「快適」とは村を訪れてみたいくなるような要素を、「知名」とは村を具体的に認識するための要素を、そして「敬遠」とは訪れる際の困難性を示す要素として示した。

第6表 要素別に見た十津川村のイメージ

		快 適	知 名	敬 遠	計
知 っ て い る	東日本	10	7	1	18
	西日本	10	8	3	21
	中 国	3	12	7	22
	小 計	23	27	11	61
知 ら な い	東日本	17	8	9	34
	西日本	2	2	1	5
	中 国	17	9	9	35
	小 計	36	19	19	74
合 計		59	46	30	135
各要素に該 当するキー ワード	伝 統 田園景観 静 寂 森 林 清 浄	河 川 溪 谷 温 泉 吊り橋 面 積 歴 史 性	過 疎 交通不便		

「東日本」は関東地方および長野、北海道を含む、「西日本」は近畿地方および愛知県を含む範囲である。

自由記述の文章から抽出したキーワードを分類してその数量を示したのが第6表である。その結果をまず、全体の傾向からみておこう。まずポイントの数は「快適」が最も多く、次いで「知名」、最後に「敬遠」の順になっている。「知っている」「知らない」の別で特徴をみてみよう。まず「知っている」は「知名」が最も多く、「快適」が続き、最後の「敬遠」は前2者のポイントの半分以下である。

地域別にみると「東日本」では「快適」が最も多く、「知名」が続いている。この両方で9割以上にのぼる。「西日本」でも同様の傾向である。一方「中国」では「知名」が最も多く、これのみで半数以上である。さらに、「敬遠」が続き、「快適」はわずかである。

次に「知らない」では「快適」が「知名」「敬遠」に比べて2倍近くになっている。この傾向は地域的にみても、「東日本」「中国」で同様の傾向を示している。「西日本」ではポイント数そのものが少ない。

#### 5. まとめ—交流拡大の展望—

本調査は結果的には都市生活者に中でも、30歳未満という若者、特に学生・生徒の十津川村への関心に検討を加えてきた。調査対象の限界性を踏まえつつ、今回の都市生活者へのアンケートから明らかになっ

た点を以下にまとめておこう。

まず、十津川村という名称への認知度である。全体の3割以上が知っているということは、かなりの数と考えてよい。ただし、男性に比べて女性への名称の浸透が極めて緩慢である。次に十津川村の位置や範囲への理解に関してである。回答内容のみをみると役場や回答者自身が知っている観光拠点の位置を答えたり村域の範囲を示したもので様々であった。それらをまとめて東西方向と南北方向に分けて場所的な認識の度合いを検討してみた。その結果、東西方向の位置では十津川村を知る、知らないにかかわらずほぼ順当な認識の形成されている状況を確認できた。しかし、南北方向については、知るグループに比べて知らないグループは村の位置をかなり北の方へ認識していることがわかった。

最後に村に対するイメージに関する点である。回答者の範囲でみる限り、ポジティブなイメージがネガティブなそれを上回っていることが分かった。これらのことは都市への人口集中の集まりと過密に伴う住環境の劣化に対する、都市生活者の自然への関心の高まりを示しているとも考えられる。これまでの考察から交通インフラの整備とモータリゼーションの進展によって日帰り観光圏は大きく拡大しており、十津川村のような山間地域も都市の観光・レクリエーション機能を担い、都市圏の一部を構成する可能性を示していることがわかる。世界遺産登録をめざす「紀伊山地の霊場と参詣道」の重要なルートをかかえる十津川村にあって、南北の世界遺産をつなぐ観光軸を意識した観光ルートの形成の必要性をこのアンケートの結果は改めて示していると考えられる。

## 謝辞

本稿は以下に記す教育研究プロジェクトの成果の一部である。貴重な研究機会と様々な便宜を与えていただいた関係各位に感謝申し上げます。

- ・奈良県十津川村教育委員会「十津川創生塾事業」
- ・神戸学院大学経済学会「観光とホスピタリティに関する研究プロジェクト事業」
- ・奈良県立大学「地域貢献型キャンパス事業」

また、この内容は地域地理科学会関西地理部会2003年度例会（2004年2月14日、西宮市大学交流センター）にて発表したものの一部である。



付表 十津川村のイメージに関する記述

整理番号	性別	年齢	住所	十津川村はどのような村だと思いますか。
2	女	50	千葉	自然に囲まれた村
3	女	50	神奈川	森林に囲まれた静かな村のイメージ
4	女	40	東京	人口が少ない。自然が多い。
5	男	30	東京	村の面積日本一。熊野川上流の自然の豊かな村。
7	女	30	神奈川	自然が豊かな村。山に囲まれている村。
8	女	40	東京	山奥の交通が車かバスしかない所。
10	女	40	千葉	義経一族が隠れていた？山奥。
11	女	50	東京	山合の自然に恵まれた村。
12	女	40	東京	緑が豊で清らかな川の流れる村。
15	女	30	東京	自然に恵まれた村
16	女	30	千葉	自然が多く恵まれている村。過疎化が進んでいる。
17	女	40	東京	山合の静かな村。
19	女	30	東京	緑がたくさんあって、日本の古き良き雰囲気（田舎の）がのこっている。
20	男	40	東京	自然の多い村。
22	男	40	東京	自然がたっぷりの人が住むには良い所（人のしがらみには関係なし）。
24	男	50	東京	ひなびた村。
26	女	10	東京	子供が少なくて学校が遠そう。
27	男	20	東京	自治意識がある伝統のある村。
28	女	20	神奈川	川が近くにある感じ。
29	男	20	神奈川	静かそうではあるが、イメージがわかりません。
31	男	10	東京	静かな村。
32	男	10	神奈川	なにもない村。
34	女	20	埼玉	川がありそう。
35	女	50	東京	川が村の中にいくつも流れている山間部の村。
36	男	20	神奈川	山奥の村。
37	男	40	長野	吊り橋と山と川と温泉の村。
38	男	20	東京	川の流れた、穏やかな町。
39	男	20	東京	十津川という川がかってあった村かな？観光地とはなっていない、昔の家並みがありそう。
40	男	20	東京	のどかな村。
41	男	20	東京	山と温泉の村。吊り橋。空気がいい。
42	男	40	東京	隠田百姓村。
44	男	20	大阪	自然が多い。
46	男	10	和歌山	川がきれいで非常にのどかな村。
47	男	20	奈良	山奥にある村。田畑が多い。
48	女	10	京都	温泉・吊り橋がある。
49	女	40	奈良	過疎の村。吊り橋で有名。十津川郷土で有名。
50	女	50	北海道	辺鄙な所。自然が豊かな所。
52	男	10	京都	大きな村。
53	男	10	奈良	川沿いにある、人口の少ない村。
54	女	30	大阪	山の中の不便な村。
55	女	30	大阪	他都道府県の人が憧れる奈良県南部の代表的な観光地。温泉、自然の豊かな村。
56	男	60	奈良	十津川郷土や天誅組を思い出すが、いろんな意味で豊かさ。
57	男	10	大阪	田畑が多そう。
58	男	20	長野	のどかで自然豊かな村。
59	男	10	奈良	田舎？
60	男	20	大阪	緑が豊か。

付表（続き）

整理番号	性別	年齢	住所	十津川村はどのような村だと思いますか。
63	男	20	奈良	静かな村。
64	女	20	奈良	田舎
66	男	20	島根	漬物の名産地。
67	男	20	島根	日本一面積の広い村、だったと思う。過疎地域。
68	男	20	島根	十津川に沿って集落のある、林業の村。
69	男	20	島根	古墳など、遺跡のある村。
70	男	20	島根	十津川の上流の静かな山村。
71	男	60	島根	山村、溪流の村。
73	女	20	島根	おばあさんが住んでいる（閉じ込められている）座敷牢がありそう。横溝小説的イメージ。
74	男	30	島根	手付かずの自然、高齢化、大衆温泉がある。林間学校に最適。
75	男	40	島根	かなり面積の広い村。
76	女	20	鳥取	川や畑や森がいっぱいなのどかな田舎。
77	女	20	島根	川沿いに広がる田畑が多い村。
78	男	20	島根	江戸時代は村民はほとんどが士族だったところ。
80	女	20	島根	静かなところ。
83	女	10	島根	自然が多い村。
84	男	20	島根	きれいな川のある中山間地域。
85	女	10	島根	過疎化の進んだ農村
86	女	20	島根	山間地で空気がきれいな静かな村
87	女	10	島根	山の中の過疎の農村
88	女	10	島根	農村？
89	男	10	鳥取	森林に囲まれた所
91	男	20	群馬	自然に恵まれたのどかな村
92	男	20	愛知	面積の広い村、四方を山に囲まれ、山と、谷の高低差が大きい。
93	女	20	島根	山の中
94	女	20	島根	水がおいしい所？、田舎。
96	女	10	島根	過疎に苦しむ村
97	女	10	島根	人口が少なく、過疎が進んでいる。
98	女	20	島根	山に囲まれていて、自然がたくさん残っている村。人口も数万人程度（1 - 3万？）、それ以下かも。
99	男	20	島根	のんびりした田舎の山村。
100	男	20	島根	林業主体の村、高齢化、交通が不便そう。雨が多い。
101	男	20	島根	自然が豊か。
104	女	20	島根	過疎化が進み、昔、北海道の一部を開拓した。
106	男	20	島根	山奥にある村。面積が日本一広い村だったと思う。
107	男	20	島根	過疎の村。水が豊富。
108	女	20	島根	過疎村
109	女	20	島根	十津川が流れる、山間の村
110	男	20	島根	静かな農村だと思います。

整理番号は回収したアンケート用紙に付した通番号である。  
年齢は10才きざみに設定してある。